

水辺の小さな自然再生の技術構築とネットワーク形成

事例紹介 HP 水辺の小さな自然再生研究会



自然・環境マネジメント研究部 生態研究グループ

三橋 弘宗

「小さな自然再生」とは、小規模で低予算で誰もが参加できる自然を再生するための技術です。身近な自然環境に対して、介入する要所を絞り、技術を小規模化することで、市民をはじめ様々な立場の方が参画できるように、カスタマイズと効果検証が研究開発のポイントになります。そのため、分類学、生態学、土木工学や農学に関する知識、そして環境教育や観光、防災など複合的な観点が必要になります。一人では限界があるので、研究会や講習会を開催し、全国の様々な研究者や行政、NGOとのネットワークにより知の集積を進めています。

2020年度の具体的な取り組みでは、兵庫県豊岡市での小流域での耕作放棄地を遊水池として活用した治水と環境（湿地再生）の両立に向けた対策を行い、そのことで湿地の維持と洪水のピークカット（22%）が実現しています。また、秋田県仙北市の雄物川水系での河川改修後の単調な地形をバース工を用いて瀬と淵を再生する取り組み、京都府美山町芦生では河道内に落ち葉を貯留させるための石積み水制を設置し、これらの効果検証と参加プログラムづくりを行っています。

